

●胎便吸引症候群

赤ちゃんは、お母さんのおなかの中にいるときには、うんこをしません。しかし、何らかの影響で赤ちゃんが苦しくなったとき、うんこをしています。このうんこのことを胎便といいます。胎便は、羊水のなかに溶け込み、その胎便で汚れた羊水を、赤ちゃんは飲み込んでしまいます。飲み込んだ汚れた羊水は、胃や腸だけでなく、赤ちゃんの肺の中にも入っていきます。そうすると、肺の中で胎便が詰まってしまったり、胎便が炎症をおこしたりします。その結果、肺が破れたり、肺炎になったりしてしまい、赤ちゃんの呼吸が苦しくなってしまいます。この状態を、胎便吸引症候群といいます。

症状は、多呼吸、低酸素血症、発熱、などがあります。臍や爪、皮膚などが、胎便の色である深い緑色に染まっていることもあります。治療方法は、投薬（強心薬など）、酸素投与、人工呼吸器、などがあり、肺が破れた場合は、針を刺して空気を抜くこともあります。さらに、重症度が高くなると、人工心肺が必要になったり、救命できなかつたりすることも稀にあります。また、新生児遷延性肺高血圧症を合併すると、さらなる治療が必要になります。それでも、多くの場合は後遺症なく治りますが、のちに小児ぜんそくを発症することもあります。